



「現代子ども学」公開講座

本学学生・教職員が、地域の皆様や幼稚園・保育所の先生方と、子どもについての学びを共有し、交流させていただく貴重な機会となることを願い、年に2回開催しています。

第14回公開講座 2016年5月10日(火)



「子ども虐待」を見逃さないために～医学的な見方・対応方法を中心に～

講師：仙田 昌義先生（国保旭中央病院小児科部長）

お医者様の立場から、具体的にお話をいただきました。虐待をどこから見つけるのか、どのような虐待があるのか、虐待にどう対応していくべきか、ご経験を基にしたお話があり、組織的な連携した取り組みが必要で重要であることも教えていただきました。

参会者の感想（抜粋）

子どもに関わる仕事をしているので、とても勉強になりました。保護者対応が難しいとも感じるのですが、子どもの命を守るため、今日の講演で学んだ内容を心にとめて、園全体で対応できる、また医療機関とも協力できる態勢をととのえていきたいです。

第15回公開講座 2016年12月6日(火)



「子どもは「遊び」で育つ～「遊び」と「学び」の関係を考えてみよう～」

講師：河邊 貴子先生（聖心女子大学教授）

「子どもが育つ」とはどういうことか、幼児期に必要な体験は何か、遊びとはどのようなものかなど、分かりやすくお話いただきました。子どもは遊びの中で学んでいるので、遊びをどう育てるか、「子ども」を理解する目を磨くにはどうすべきか、「保育記録」の重要性とともに御示唆いただきました。

参会者の感想（抜粋）

子どものひらめきが深まるかどうかは大人の環境の出し方によるという言葉にハッと、適切な援助ができていたかと考えました。今後は今日のお話を振り返りながら、子どものより良い育ちのためにより良い保育をしていきたいと思えます。

2017年度の公開講座

第16回公開講座

「「気になる子ども」の理解と対応」



日時：2017年5月13日(土)

13:10～15:00

講師：帆足 暁子先生

（ほあしこどもクリニック副院長）



※掲載した手袋人形は、本学の 大野雄子教授の作品です。

— 教育・保育の敬愛

千葉敬愛短期大学

総合子ども学研究所 ニュースレター 第5号

本研究所は、「子ども」を様々な視点から、学問的・実践的見地に基づいて研究し、本学の教育の充実発展を図ると共に、地域の教育・保育に寄与することを目的として設置されました。

発行日：2017年4月30日
http://www.chibakeiai.ac.jp
〒285-8567 千葉県佐倉市山王 1-9
TEL. 043-486-7111 (代表)



山王っ子フェスティバル

2016年11月12日、佐倉市立山王小学校で開催された「山王っ子フェスティバル」。参加した本学の学生のうち、同校で教育実習を体験した初等教育コース3名の学生からの感想文をご紹介します。

私たちは「たまご先生」として「山王っ子フェスティバル」に参加させていただきました。児童参加型の『おおきなかぶ』の寸劇を披露したのですが、みんなで意見を出し合い「どうしたら1年生から6年生まで楽しんでもらえるか」を考え、台本や小道具を作りました。当日は児童が楽しんでいる様子を見て、達成感を得ることができました。『おおきなかぶ』上演の合間に、敬短名物の「ラーメン体操」と「地球はみんなの大合唱」を披露させていただいたところ、皆さんに喜んでいただいたので嬉しかったです。

9月の観察・参加実習でお世話になった山王小学校の先生方や児童と改めて関わる機会をいただき、実習で出会った児童達が心身共に成長している姿や、変わらず元気に学校生活を送る姿、また、授業を受けて

いる時とは違う顔も見ることが出来る良い機会となりました。子どもの成長を感じることが出来る教師を目指して成長していきたいと実感しました。

フェスティバルを運営するPTAの保護者の方々の動きを拝見し、「学校行事は保護者の方々の力があってこそ成功する」ということを改めて実感いたしました。今回、貴重な体験をさせていただいたことに感謝し、この体験で学んだことを今後の学生生活や教員生活に生かしていきたいと思えます。

小平 愛
矢嶋 一樹
望月 夏子





2016年度 夏休み子ども向け公開講座

2016年度は8月18日から21日までの4日間で7講座を計画していましたが、天候不良のため1講座の開催ができませんでした。講座には、佐倉市内の小学校3年生から6年生までの169名が参加してくれました。小学校の異なる友だちと同じグループで実験や課題に取り組んだり、グループ発表をおこなったりと子どもたちの協

調性の高さに驚かされました。また、本学の学生アシスタントだけでなく、千葉女子高校、我孫子高校、君津高校からもジュニアスタッフとして活動に参加していただきました。佐倉キャンパスを中心に、小学生、高校生、短大生といった様々な世代が集う学びの場ができてきました。スタッフのコメントとともに各講座をご紹介します。

『みんなで箏を弾いてみよう』



昨年、一昨年と参加してくれた児童が5名いたことは、驚きであり大変嬉しいことでした。演奏する曲数を増やしたことで、帰り際に「たくさん曲が弾けて楽しかった。」「去年弾けた曲と今年の新しい曲両方できてうれし

音楽I
(箏)

かった。」との感想をもらいました。(担当講師)
お姉さんといっしょにはなしをしたりことをやるのもむずかしかったけどたのしかった。(参加者)

『音楽で心と体を動かしてみよう!』

小学3年生～6年生の参加者20名でスタートしましたが、途中から一緒に会場に来ていた幼稚園の年長児たちも自然に加わり、想像以上に楽しい3時間になりました。(担当講師)



音楽II
(リズム表現)

手話が楽しかった。初めて来て、少しきんちょうしていたけど、話しかけてくれるお姉さんがいて、安心した。(参加者)

『夏休みの課題 (図画工作科のポスター製作)』

本講座の時間内に作品を完成させることができた児童は約8割。時間内に完成する、造形表現が上達する、という点がもう少し良くなると参加した保護者の希望にもこれまでに以上に応えることができると思います。(担当講師)

絵を学校でかくときは、いつもへただったんですけど、ここにきてどうやって絵をじゃぶじゃぶにかけるかわかりました。(参加者)



図画工作

『DNAの採取』



DNAに関する解説を行った後、プロコラーゲンの芽からDNAを採取し観察しました。また、工作紙でプーメランを製作しました。4年生には難しい操作もあったようですが、各グループにボランティアの学生、高校生を配置することができたため、円滑に進行でき、実験も成功しました。(担当講師)

理科I

DNAを初めて生でみたので、はっきり見えてすごかったから、まだ見たことない実験をいっぱいやりたい!(参加者)

『浮沈子とくるくるしゃぼん玉』



子どもたちは不思議に思ったことについてよく考え、話し合い、製作を楽しんでいたように思います。大学生、高校生のボランティアの活躍が素晴らしかったです。(担当講師)

理科II

今までやったことのないことで、ふちんしのひみつなどくわしくおしえてもらったのしかったです。らいねんも行きたいです。(参加者)

『読書感想文を書くために』

子どもたちの「感想」や「感想文」についての認識を改めたり深めたりすることができたと思います。読書感想文に欠かせない要素、読書感想文を書く上での手順や留意点にも気づかせることができました。(担当講師)



国語

あっという間に時間がすぎた。友達もできたし楽しかった。作文を好きになった。(参加者)



通学合宿



2016年度は佐倉市教育委員会、佐倉市中央公民館、八街市教育委員会の依頼を受け、のべ25名の学生が、4回の通学合宿に参加しました。小学生と寝食を共にした生活を送り、児童の活動を支えるとともに、学生もまた貴重な体験をさせていただきました。

保護者の感想から

参加する前は不安そうに見えた息子が、通学合宿が終わるととてもたくましく見えました。帰り道、学んだ割引価格の計算方法など思い出を話してくれました。家に着くと、合宿で学んだ野菜の切り方を見せたくて、率先して夕食の手伝いをしてくれました。夜も自ら時間を確認し、就寝することを身につけました。合宿を通して、大きく成長させていただきました。ありがとうございました。



高大接続教育



教員基礎コースが設置されている千葉県立安房高校、千葉女子高校への出前授業、本学「夏休み子ども向け公開講座」への高校生のボランティア参加に加え、2016年度は新たに教員基礎コースが設置される我孫子高校、君津高校と協定を結び、プレ合宿への教職員の出前講座、出前授業を実施しました。また柏中央高校のインターンシップ事前学習を本学で実施し、高校生が小・中学校や保育園・幼稚園での体験の前に「幼児や児童の発達や心理」、「教育・保育ということ」などの概略を学びました。



コミュニティカレッジさくら

2016年度も、「コミュニティカレッジさくら第1学年基礎講座」に、のべ11名の教員が出講しました。「よりよいコミュニケーションとは」「よりよく『聴く』ことへの『責任』」「地域のリーダーになるために」「異年齢集団の構造と課題」「身近な人権」「家庭・家族と地域の役割」などのテーマで、講義や体験的学習を行いました。

